

環境活動報告 2013 年度



成蹊学園の環境側面

環境側面とは、成蹊学園が教育研究を進めていく上で環境と相互に関係しうる内容のことです。

たとえば、環境保全に関する教科を設置すると「プラスの環境側面」、電気や紙を使用すると「マイナスの環境側面」となります。



プラスの環境側面

環境方針	著しい環境側面	目的 2011 ～ 2013 年度	目標 2013 年度	達成状況
環境問題に貢献する人材育成 および環境分野の研究推進	環境教育・学習プログラム の提供	小・中高・大学における環境教育・学 習を推進する。	小・中高・大学における環境教育・ 学習の機会を増やし、充実させる。	○
環境問題に貢献する人材育成 および環境分野の研究推進	環境関係の研究の実施	中高・大学における環境関係の研究を 充実させる。	中高・大学における環境関係の研究を さらに増やし充実させる。	○
環境に関する教育研究の発進・ 公開、社会貢献を図る諸活動	環境問題に対する理解 と関心の向上	学園における環境教育・学習について、 発信・公開するとともに自らの環境へ の意識を高める。	学園における環境教育・学習について、 発信・公開するとともに自らの環境へ の意識を高める。	○
近隣地域とのコミュニケー ションを図る	地域とのコミュニ ケーション	地域社会とのコミュニケーションのさ らなる充実を図る。	地域社会とのコミュニケーションの さらなる充実を図る。	○
みどり豊かなキャンパスの充 実と環境に配慮したキャンパ スづくり	環境の整備・緑の保 全・充実	キャンパスの緑の維持と適正な計画に よる整備・充実を図る。	キャンパスの緑の維持と適正な計画 による整備・充実を図る。	○
みどり豊かなキャンパスの充 実と環境に配慮したキャンパ スづくり	環境負荷低減への配慮	環境負荷低減に配慮した施設・設備の 導入と備品及び物品等の調達を進める。	環境負荷低減に配慮した施設・設備の 導入と備品及び物品等の調達を進める。	○
みどり豊かなキャンパスの充 実と環境に配慮したキャンパ スづくり	エコ空間の創造	環境活動と調和のとれた空間づくりを 進める。	学園の事業活動（教育、研究等）とバ ランスのとれた環境活動に取り組む。	○
みどり豊かなキャンパスの充 実と環境に配慮したキャンパ スづくり	省資源化	省資源化による環境に配慮したキャン パスづくりを進める。	省資源化による環境に配慮したキャン パスづくりを進める。	○



マイナスの環境側面

環境方針	著しい環境側面	目的 2011 ～ 2013 年度	目標 2013 年度	達成状況
環境負荷の低減と環境汚 染の防止（省エネルギー）	電力・ガスの 使用	電気・ガス使用量の削減 基準値（2008 ～ 2010 年度実績の平均）に 対し 3 年間で 1%削減（3 年平均）	電気・ガス使用量を基準値（2008 ～ 2010 年 度年度実績の平均値）に対し、1%削減する。	電気：○ ガス：○
環境負荷の低減と環境汚 染の防止（省資源）	水の使用	水の使用量の削減 基準値（2008 ～ 2010 年度実績の平均）に 対し 3 年間で 1%削減（3 年平均）	水の使用量を基準値（2008 ～ 2010 年度年度 実績の平均値）に対し、1%削減する。	○
環境負荷の低減と環境汚 染の防止（省資源）	紙の使用	紙の使用量の削減 基準値（2008 ～ 2010 年度実績の平均）に 対し 3 年間で 1%削減（3 年平均）	紙の使用量を基準値（2008 ～ 2010 年度年度 実績の平均値）に対し、1%削減する。	○
環境負荷の低減と環境汚 染の防止（廃棄物の減量）	使い捨て物品 の使用	使い捨て容器・割り箸・レジ袋・文具の 削減	使い捨て容器・割り箸・レジ袋・文具の削減 を手順に基づいて実施する。	○ ※1
環境負荷の低減と環境汚 染の防止	製品の購入	グリーン購入の取組みを促進する。	事務用品の購入金額に占めるグリーン購入の 割合を前年度より増やす。	○

※1 数値の測定は割り箸のみ実施。



各学校の環境活動状況

学校法人成蹊学園

【活動内容】

- 学園の樹木をはじめとする自然環境の保全・整備に努めます。
- 東京都環境確保条例に定められた CO2 削減目標を達成します。
- 環境に配慮した施設・設備の整備をします。



ソメイヨシノの植え替え

【活動内容】

クールビズ、ウォームビズの周知活動として、学生・生徒・児童を対象にポスターデザインの募集を行い、最優秀および優秀作品を選出しました。最優秀作品となったポスターは、啓蒙のために学内各所に掲示しました。

9月には、ISO14001の認証更新についての外部審査があり、これまでの学園全体での積極的な活動が評価され、認証更新することができました。2010年度から毎年実施しているソメイヨシノの植え替えを実施していますが、2013年度は対象樹木である3本を伐採し、同じDNAをもった新しい苗木を本学の小学生が植樹しました。

成蹊小学校

【活動内容】

- 野菜の栽培から調理までの一貫した食農教育を全学年で押し進める。
- 教科学習や桃の会活動等を通して、環境への意識をより高めていく。
- 毎日の全校清掃時間を確保し、共に力を合わせて校内の美化をめざす。



草木灰を利用した土作り

【活動内容】

学園内で作られたコンポスト堆肥、落ち葉焚きの草木灰を利用した土作りで畑の整備を行い、収穫した野菜類を自分たちで調理するなど、環境循環の学習活動を展開しています。施設面では、児童・教職員の委員会が中心となって、エネルギーの削減に努めています。

成蹊中学校・高等学校

【活動内容】

- 授業や行事において環境に関する教育を充実させます。
- 生徒会を中心として、リサイクルなど、環境に関わる活動を推進します。
- 施設や備品を長く大切に使い資源の有効活用と環境美化に努めます。



蹊祭（文化祭）での展示

【活動内容】

理科、社会科、家庭科などを中心に環境に関する授業を展開し、自然観察会や宿泊行事、気象観測等を通じて、環境について考えました。日頃から敷地内の緑化を推進し、緑の保全に努めています。

特に、文化祭では実行委員を中心に、ゴミステーションの設置やゴミ自体の削減の工夫、環境に関する展示を続けています。

成蹊大学

[法学部・経済学部・文学部]

【活動内容】

- 大学のキャンパス内の建物側面の緑化・花化により、環境整備の充実を図ります。
- 活動の情報発信により、広く構成員の環境への意識の向上に努めます。



ゴーヤカーテン植栽後

【活動内容】

学生環境委員会の発案で開始した夏季のゴーヤカーテン、冬季のビオラによる緑化・花化を継続しました。ゴーヤの植栽には、新たに馬場のコンポストで作られた堆肥を使用し、環境整備の充実を図りました。

また、大学区域及び学生環境委員会で実施した取り組みについて、ホームページに掲載し、積極的に情報発信することで、構成員の意識向上に努めました。

[理工学部]

【活動内容】

- 今後も、環境に関するプロジェクトで得られた多くの研究成果を広く公表していきます。
- 成蹊教養カリキュラムとして全学部学生を対象にした「環境の科学」の講義を行います。
- 学園全体で薬品や高圧ガスの使用量や貯蔵量に関する管理を法令順守の観点に基づき実施します。



公開講座「地球温暖化とエネルギー」講演の様子

【活動内容】

理工学部では、2013年度に実施された2回の公開講座のうち、前期に開催された「岐路に立つ日本」という大学統一テーマの中で、「地球温暖化とエネルギー」というタイトルで講演を行いました。

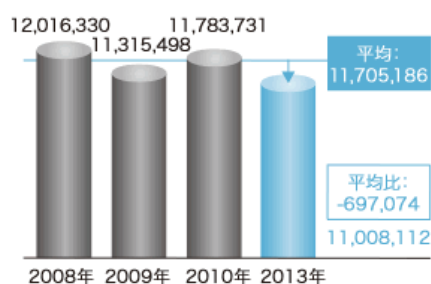
また、大学情報図書館内に環境コーナーを設け、環境に関係する図書を閲覧しやすいようにしています。

2013 年学園全体のエネルギー使用状況

学園では、エネルギー使用量の削減のために、省エネ機器の導入・更新を進めており、運用面においてもクールビズやウォームビズに対応した温度設定（夏：28 度、冬：20 度）を徹底しています。また、電気・ガス・水道使用量については、2008 ～ 2010 年度実績の平均値に対し 3 年間（2011 ～ 2013 年度）で 1%削減（3 年平均）という削減目標を設定しています。

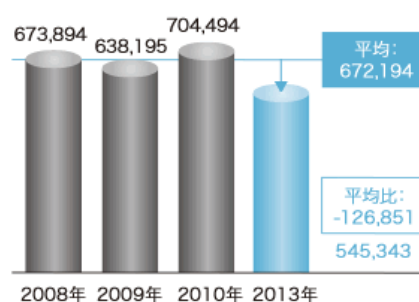
電気使用量（kwh）

建物やグラウンドの照明や冷暖房設備（一部）に使用しています。2013 年は 2008 ～ 2010 年の平均値に対し、5.96%削減しました。
※実際の削減目標は、年度実績です。



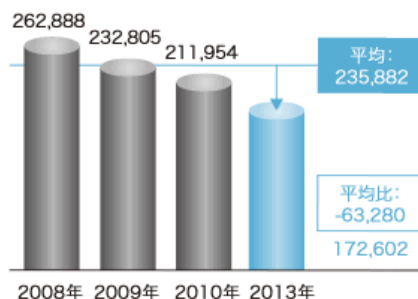
ガス使用量（m3）

冷暖房設備のほとんどはガス（GHP 方式）を使用しています。2013 年は 2008 ～ 2012 年の平均値に対し、18.87%削減しました。
※実際の削減目標は、年度実績です。



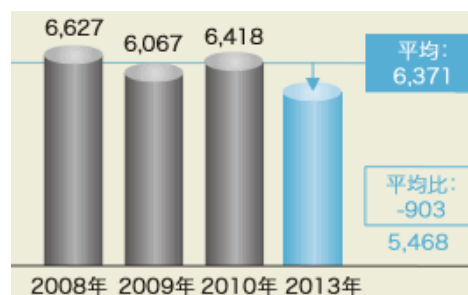
水道使用量（m3）

各学校キャンパスにある建物や食堂の水として使用しています。2013 年は 2008 ～ 2012 年の平均値に対し、26.83%削減しました。
※実際の削減目標は、年度実績です。



CO₂ 換算排出量（tCO₂）

学園で使用しているエネルギー（電気、ガス、灯油、LPG）の使用量を CO₂ 排出量に換算し、合算した値です。削減目標は設定していませんが、2013 年は 2008 ～ 2010 年の平均値に対し、14.17%削減しました。



2013 年は、電気及びガス使用量は基準値に対して 1%以上削減できました。電気は、東日本大震災以降の節電の取り組みが継続されているため、減少しました。ガスは、大学の教室棟用の空調熱源をガス式から電気式に改修したため減少しました。

2013 年度エネルギー消費状況

<https://www.seikei.ac.jp/gakuen/kankyo/data/data2013.pdf>

CO₂ 換算データ

<https://www.seikei.ac.jp/gakuen/kankyo/data/yeardata.pdf>

2013 年学園全体の用紙使用状況

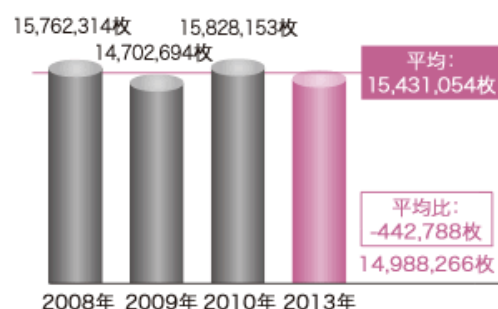
学園では、用紙使用量の削減のために、両面コピーや電子データの使用を徹底しています。また、2008 ～ 2010 年度実績の平均値に対し 3 年間（2011 ～ 2013 年度）で 1%削減（3 年平均）という削減目標を設定しています。2013 年は、2.87%削減しました。

※実際の削減目標は、年度実績です。

※2008 年 4 月より計測を開始したため、2008 年の値のみ年度実績です。

2013 年度用紙使用量

<https://www.seikei.ac.jp/gakuen/kankyo/data/paperdata2013.pdf>



2013 年度の環境に配慮した施設整備状況



新大学 6 号館 2014 年 4 月竣工予定（6 月より使用開始）



学図本館前から見た完成イメージ

新大学 6 号館の建設工事が 2014 年 4 月に竣工します。

この建物は多目的用途であると同時に、多方面において環境に配慮した設計をしています。照明では、LED 照明・人感センサーをはじめ、建物の暗い箇所に自然光を運ぶ「光ダクト」を導入します。

また、熱負荷の低減としては、地中熱外気と煙突効果を利用した「自然換気システム」およびガラス面に水を流して表面に薄い水の膜を作り、気化熱により建物を冷却する「ガラス散水」を導入します。

更に外構では、ミスト噴霧による蒸散効果で噴霧エリアの外気温度を低下させる「ドライミスト」を導入します。その他にも多数の省エネ技術の導入が予定されており、2014 年には、最先端の環境配慮型施設が完成します。